

- 2024年3月29日に国土数値情報ダウンロードサイトの活用事例ページをリニューアル
- 現在5事例を掲載 ⇒ 今後も情報収集し、随時サイト追加を行う事で、ユーザの利便性向上を図る

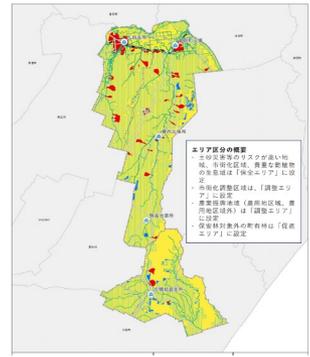
活用事例ページ : https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/case_studies.html

	活用事例	用途
①	能登地震被害状況調査 (東北地方整備局)	緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)の活動にて、 <u>土砂災害警戒区域における被害状況調査や、避難所の二次災害発生リスク確認のため、現地調査地図を作成</u> 土砂災害(特別)警戒区域、避難施設
②	再生可能エネルギー 適地分析 (北海道幕別町)	町内の再エネ設備の適地誘導を図るために、 <u>太陽光発電・木質バイオマス等のゾーニングマップを作成</u> 自然公園地域、世界自然遺産、都道府県指定文化財、土砂災害危険箇所、都市地域、農業地域、土地利用細分メッシュ
③	ボクセル築城！ きりたんキャッスル	DEM(標高数値モデル)と、 <u>河川・湖沼データを活用し、現実の地形をもとにプレイヤーが築城できるゲームを開発</u> 河川、湖沼
④	地盤サポートマップ (ジャパンホームシールド)	<u>住宅購入者が地盤の強さや洪水・土砂災害等のリスクを把握できるWebサービス「地盤サポートマップ」を提供</u> 洪水浸水想定区域、土砂災害危険箇所、土砂災害警戒区域、用途地域、避難施設、都市公園、医療機関、小中学校区
⑤	地理総合における 教材作成 (群馬県藤岡中央高校)	<u>地理総合の防災学習教材として、藤岡市の河川周辺の土地利用や人口を可視化した地図を作成・学生に配布</u> 行政区域、土地利用3次メッシュ、500mメッシュ別将来推計人口

①能登地震被害調査



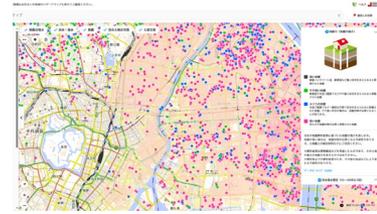
②再エネ適地分析



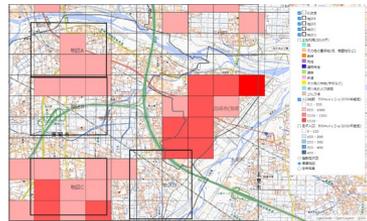
③ボクセル築城ゲーム



④地盤サポートマップ



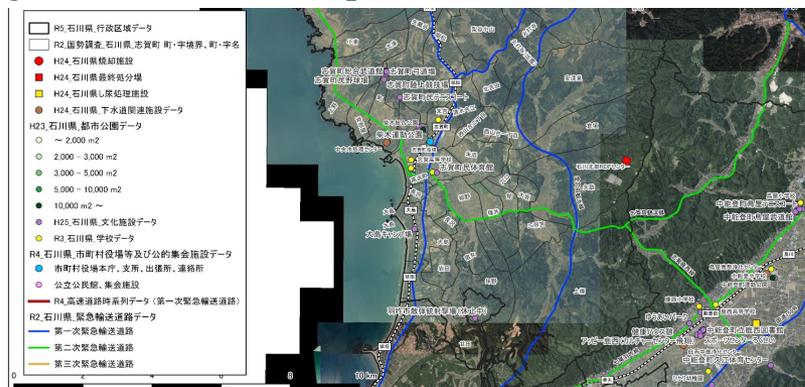
⑤地理総合教材作成



赤字：使用した国土数値情報

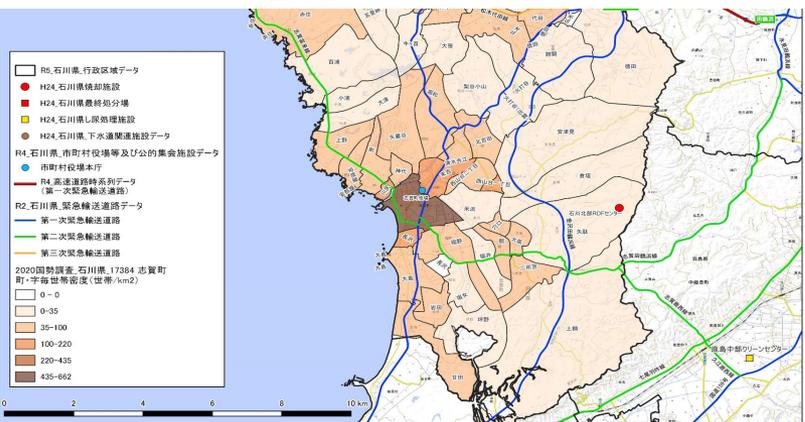
- 環境省九州地方環境事務所（資源循環課佐々木氏）では、災害廃棄物の仮置場、処理施設、収集車両等の手配について自治体を支援している。能登地震においても現地支援を実施。
- 国土数値情報を活用し、仮置場の候補地マップや、不法投棄見回り用マップを作成し関係者に配布。
※面積の広い公共施設(学校・公園等)や、廃棄物処理施設、緊急輸送道路、小中学区などを可視化
- 土地勘がない被災地の地名確認から公共施設・交通機関の分布把握まで幅広く国土数値情報を活用

①「仮置場の候補地マップ」



②「不法投棄見回り用マップ」

(平時には洪水浸水想定区域データと重ね、町・字ごとの水害時の災害廃棄物発生量の検討に活用)



使用データ	用途	①	②
都市公園、文化施設、学校、市町村役場及び公的集会施設、地理院タイル(航空写真)	災害廃棄物の仮置場候補となる、 <u>3000㎡以上の広さとなりうる公共施設の立地を把握し、航空写真を用いて空きスペースを確認</u>	○	—
廃棄物処理施設、下水道関連施設	既存の処理施設の立地を把握	○	—
小学校区、中学校区、避難所	仮置場の開設場所や、不法投棄見回りルートを検討時に考慮	○	○
緊急輸送道路、高速道路時系列、鉄道	仮置場への収集車両や人員のアクセスを把握	○	○
行政区域、国勢調査(小地域 町丁・字等)	慣れない地域の地名確認や、不法投棄リスクの高い人口密集地を把握	○	○

※赤字は国土数値情報

過去の災害支援においても国土数値情報を同様の用途で、長年利用している。また、自治体向けに平時からの備えとしてQGISを使用したマップ作りのセミナーも複数回実施

例：R4年度 水害時の災害廃棄物発生状況GIS研修 第3回資料
<https://kyushu.env.go.jp/content/000127045.pdf>